

# あかりみらい 能登半島地震の被災地停電地域に 車から電気を取る給電装置を支援

あかりみらいは1月下旬、能登半島地震被災地へ、車から電気をとる停電対策装置「安心給電キット」300台を支援物資として石川県に登録申し込みをした。電力を完全に供給できる同社のオリジナル商品で、「防災に役立ててほしい」とこれまで全国の自治体に寄贈し、喜ばれている。

自然災害によりブラツ



※1500ワット/100ワット切替スイッチで1500ワットまで使えます。突入電力で1500Wまで使えない家電品もあります。

▲安心給電キットと使用時のイメージ

クアウトや大規模停電が起きたとき、そんな緊急時に役立つのが車だ。2018年の胆振東部地震で道内全域が停電した際は、セコマが自動車から電源を取って営業を続け、消費者から「神対応」と

賞賛された。

自動車から電気を取るための機器を店舗に配備していたほか、レジを動かすためのマニュアルを整備していたからこそできたことだ。

ことほど防災に対する備えや意識を持つことは緊急時に大きな力となる。この震災経験から道内各地で行われている防災総合訓練では、車からの給電が各市町村で採用され、あかりみらいは惜しみなく協力を続けている。同社が開発した「安心給電キット」はコンセント付きハイブリッドカーから電気を送ることができるコードリールに、電流制限装置と使用電力の

インジケータを付属させた商品。使用できる電力の上限を超えると自動的に電気を遮断するため、文字通り「安心・安全」に使える」のが大きな利点だ。

石川県に支援物資として登録申し込みをしたのは、地震発生後約1カ月が経過してもいまだに停電復旧できずに苦しんでいる地域が、輪島市や珠洲市を中心に半島北部に多いためだ。

防災の専門家で危機管理コンサルタントの越智文雄社長はこう語る。「避難にあたっては、人工呼吸器や吸痰器、酸素吸入器などの医療機器をお持ちになっっている方もいらつしやいます。自家発電機や車からの給電では電圧の維持がとても重要で、短く細いコードを何本もつなぎ合わせると電圧低下になることがあ

ります。また、雨で濡れて漏電したり、窓やドアに挟まって断線したりするなどの危険性を伴います。この安心給電キットはそうした心配がまったくありません」

こうも言う。

「北見市の厳寒期防災訓練では車1台から60台の電気毛布に給電することができました。用途としては、照明やスマホの充電のほか、テレビ、パソコン、炊飯などにも使えます。コンセントがない車でもシガーソケットから市販のインバーターを経由することで100ワット程度の電気を取ることが可能です」

一刻も早く電気のある生活を取り戻せることを願ってやまない。

詳しくは、あかりみらいホームページの「安心給電キット」を検索